

活動情報

TEL 0930-23-4215 FAX 0930-23-8290
E-mail keichiku-dlc@pref.fukuoka.lg.jp
地域振興課 水田農業係

No. 11 (令和6年8月8日)

築上町集落営農組織連絡協議会の勉強会を開催

8月2日に、築上町集落営農組織連絡協議会の勉強会が開催され、農業者、関係者等約20名が参加しました。町内の集落営農組織は、次世代の役員やオペレーターといった担い手が不足しており、持続的な組織経営のためにも、人材確保が課題となっています。

勉強会では、普及指導センターが講師として、集落営農組織を巡る情勢や将来に向けた経営ビジョン共有の重要性を説明し、集落営農組織の人材確保について優良事例の紹介等を行いました。

参加者を2つに分けたグループワークでは、人材確保をテーマに検討を行い、組織間の協力体制の整備や合併の難しさ、地域内の人材情報の収集方法等について意見交換しました。

参加者からは「組織の役員は栽培技術の他に事務処理の能力が必要であり、短期間では育成できないため、計画的な引継ぎが重要である」等の意見が出ました。

普及指導センターでは、今後も引き続き集落営農組織の人材確保を支援し、地域農業の維持・発展を目指します。



勉強会の様子



グループワークの様子

活動情報

TEL 0930-23-4215 FAX 0930-23-8290
E-mail keichiku-dlc@pref.fukuoka.lg.jp
園芸畜産課 花き畜産係

No. 12 (令和6年8月9日)

令和6年度産ホオズキの出荷開始

～猛暑でも高品質生産を維持～

今年も、ホオズキの出荷時期となり、7月30日 JA 福岡京築犀川花卉部会の出荷目合わせ会が、部会員、JA 担当者、市場関係者および普及センター花き担当の出席のもと開催されました。

京築地域は、県内一のホオズキ産地であり、切り花や実がお盆の商材として、福岡・北九州をはじめ、大阪や愛知の市場に出荷されます。

昨年度は、梅雨期の大雨に伴い病害が多発したことから、普及センターでは、栽培講習会等を通じ、冠水時の湿害対策や雨の合間の病虫害防除を指導。併せて、ウイルス病の発生を軽減するワクチン接種システムの導入を今年度も推進しました。

7月中旬の梅雨明け以降、猛暑が続き、草丈の伸長抑制が懸念されたことに加え、カラスによる実の食害といった想定外の事態も発生しましたが、防鳥糸の設置や適期のかん水を指導することにより、例年並みの高品質なホオズキの出荷が見込まれています。

今後、普及指導センターでは、ホオズキの安定出荷に向けた技術支援に加え、出荷量の増加による産地振興を図るため、JA および管内の市町と連携し、新規栽培者の掘り起こしや既存若手生産者の面積拡大に取り組みます。



出荷目合わせ会



出荷箱内のホオズキ

活動情報

TEL 0930-23-4215 FAX 0930-23-8290

E-mail keichiku-dlc@pref.fukuoka.lg.jp

地域振興課 地域係

No. 13 (令和6年8月13日)

築上町農福連携意見交換会を開催

～農業と福祉の更なる連携強化に向けて～

令和6年7月26日、築上町役場・JA福岡京築・農業共済組合・普及指導センターで組織されている築上町農業振興連絡協議会の主催で、町内の3つの障がい者福祉施設を招き、農福連携に係る意見交換会が行われました。

この意見交換会は、令和4年度から実施している福祉事業所への白ネギの調製作業委託について、今後の活動の方針を検討することを目的に開催されています。

町からは令和5年度に開催された会議や研修会などの活動報告があり、JAから実際の作業委託実績について報告がありました。また、作業に取り組んだ福祉事業所からは、施設での作業の流れや作業を行った利用者の人数などの実績と、作業の効率化に向けた取り組み等について報告がありました。普及指導センターからは、農福連携の取り組みの拡大に向けて、他の生産者への周知や福祉事業所の農業参入について情報提供を行いました。

築上町産業課からは、「この農福連携の取り組みが、福祉事業所と地域との交流やつながりを作る入口となれるようにしていきたい」と決意表明があり、今後の更なる連携支援に向けて全体の意識が高まりました。

普及指導センターは今後も農福連携支援に取り組み、地域農業の発展を目指していきます。



農福連携意見交換会の様子

活動情報

TEL 0930-23-4215 FAX 0930-23-8290

E-mail keichiku-dlc@pref.fukuoka.lg.jp

地域振興課 水田農業係

No. 14 (令和6年8月19日)

集落営農組織の人材育成研修会を開催

～構成員の高齢化に伴う、人材確保と育成に向けた取り組み～

令和6年8月8日に、京築地域農業・農村活性化協議会水田農業振興部会の主催で、株式会社グリーンファーム角屋の坪田取締役会長を講師に招き、集落営農組織の人材育成に向けた研修会が開催されました。

研修会では、管内の集落営農組織が直面している問題であるオペレーターの高齢化と担い手不足について、解決手段の一つとして第三者継承の成功事例と作業人員を減らすために新たに取り組んでいるスマート農業について紹介がありました。

80名を超える出席者からは「スマート農業機械は何から導入した方がよいのか」「組織体制はどのようになっているのか」などの質問が挙がり、講師との間で活発な意見交換も行われました。

普及指導センターは今後も地域の担い手支援に取り組み、地域農業の発展を目指していきます。



熱心に話を聞く参加者



講師の株式会社グリーンファーム角屋 坪田氏

活動情報

TEL 0930-23-4215 FAX 0930-23-8290

E-mail keichiku-dlc@pref.fukuoka.lg.jp

地域振興課 水田農業係

No. 15 (令和6年8月19日)

JA 福岡京築大豆部会が現地研修会を開催

8月7日にJA 福岡京築大豆部会が現地研修会を開催し、管内の大豆生産者、関係者等約40名が参加しました。

現地研修会では、大豆の収量が高い農事組合法人今井ぎおん営農組合のほ場に集まり、組合長から適期作業を行うためのオペレータの割り振り方法や雑草防除の体系的な取組みについて説明がありました。また、普及指導センターからは、現地研修会のほ場で試験栽培している大豆新品種「ふくよかまる」の説明を行いました。

参加者からは、雑草防除の薬剤や時期、「ふくよかまる」の栽培方法等の質問があり、現地気温が33℃と非常に暑い中でしたが、部会員は熱心に意見交換を行っていました。

普及指導センターでは、このような取組みを通じて、部会員の大豆の収量向上を目指します。



今井ぎおん営農組合から取組みの説明



「ふくよかまる」の現地ほ場の見学

活動情報

TEL 0930-23-4215 FAX 0930-23-8290
E-mail keichiku-dlc@pref.fukuoka.lg.jp
園芸畜産課 野菜係

No. 16 (令和6年8月19日)

アスパラガス栽培管理講習会を開催 ～新たな栽培方法「柶板式高畝栽培」を検討～

令和6年8月2日、JA福岡京築アスパラ研究会は、栽培管理講習会を開催しました。

講習会では普及指導センターから、来年度へ向けた収量アップのための栽培管理方法に加え、新たな栽培方法である「柶板式高畝栽培」について説明しました。

当研究会はアスパラガスを定植して20年近くとなり、改植の時期を迎えています。「柶板式高畝栽培」は、収穫作業の省力化が図れる新たな栽培方法のため、生産者の注目を集めています。

生産者からは、アスパラガスの草姿の管理のほか、柶板式高畝栽培の導入方法やメリット・デメリットなど多くの質問がありました。また、栽培管理では「夏場の草姿をしっかりと管理したい」、柶板式高畝栽培により「リスクの少ない改植を行いたい」、「将来の収量を高めたい」などの声を聴くことができ、今後のアスパラガス生産に対する強い意思が感じられました。

普及指導センターは引き続き、関係機関と協力しながらアスパラガスの生産力強化の支援を行っていきます。



講習会で熱心に学ぶ生産者

活動情報

TEL 0930-23-4215 FAX 0930-23-8290

E-mail keichiku-dlc@pref.fukuoka.lg.jp

園芸畜産課 果樹係

No 17 (令和6年8月29日)

ブドウの先進地視察を実施

～栽培から販売と品種についての知見を深める～

京築地域では、近年のシャインマスカット人気によりブドウ栽培者が増加してきています。当管内のブドウの出荷は直売主体であるため、消費者の嗜好性の高い品種の選定が必要となっていました。そこで、ブドウ栽培や販売方法の知識習得に加え、新しい品種に関する知見を深めるため、令和6年7月18日に普及指導センター主導でブドウの先進地である大牟田市にある内野ぶどう園を視察しました。視察には、管内のブドウ生産者15名と関係機関から4名が参加し、ほ場や直売所の見学を通して品種ごとの特性や栽培管理・販売の方法について学びました。

参加者からは栽培管理に関する質問や施設に関する質問が多くあがり、日頃の栽培管理に関する悩みの解決や今後の生産・販売方法の参考になる視察となりました。

普及指導センターは、今後も栽培技術や品種に関する情報提供を行い、管内のブドウ生産者を支援していきます。



視察の様子

活動情報

TEL 0930-23-4215 FAX 0930-23-8290

E-mail keichiku-dlc@pref.fukuoka.lg.jp

園芸畜産課 野菜係

No. 018 (令和6年9月6日)

京築地区直売所食品衛生・食品表示研修会の開催 ～安全・安心な農林水産物を消費者へ提供するために～

8月27日(火)に、京築地域農業・農村活性化協議会地産地消部会と京築地区・豊築地区農産物直売所合同会議の主催で、「京築地区直売所食品衛生・食品表示研修会」が開催され、管内の加工食品(弁当・惣菜・漬物・菓子類、その他)の出荷者と関係機関など、約60名が参加しました。

研修会では、京築保健福祉環境事務所から食品製造業に関する営業許可制度と衛生事項に係る表示について、福岡県食の安全・地産地消課から加工食品における食品表示(弁当・惣菜)について講演がありました。

参加者からは、アレルギーの表示方法や表示を簡略化できる基準など、実際のご自身の表示記載の疑問点について質問がありました。

普及指導センターでは、このような取組みを通じ、直売所の支援や食の安全・安心な取組みを進めて参ります。



講習会で熱心に傾聴する加工食品出荷者

活動情報

TEL 0930-23-4215 FAX 0930-23-8290

E-mail keichiku-dlc@pref.fukuoka.lg.jp

地域振興課 水田農業係

No. 19 (令和6年9月13日)

4Hクラブが合同圃場視察を開催 ～みやこ4Hクラブと築上4Hクラブの交流を深める～

9月4日に、京都地区農業者連絡協議会（みやこ4Hクラブ）と築上地域農業青年クラブ連絡協議会（築上4Hクラブ）が、相互のクラブ員の圃場を視察する合同圃場視察を開催しました。合同圃場視察は新型コロナウイルスの影響により6年ぶりの開催となり、クラブ員10名が参加しました。4Hクラブは若い農業者が中心となり、経営や技術の解決方法を検討するための活動を行っており、みやこ4Hは行橋市・苅田町・みやこ町の農業者、築上4Hは豊前市、上毛町、築上町の農業者で構成されています。

今回はみやこ4Hクラブの楠田氏のイチジクとブドウの圃場を視察し、時期別の収穫量の差や労働力の課題、病害虫や台風10号の被害等について説明がありました。

参加者からは、「自分の品目とは全く違ったものを見ることは面白い」「次回行方築上4Hクラブ員の圃場視察も楽しみだ」との意見がありました。非常に暑い中でしたが、クラブ員は熱心に意見交換を行っていました。

普及指導センターでは、このような取組みを通じて、クラブ員間の連携を図り、農業者の交流を促し、経営発展に向けた支援を続けていきます。



楠田氏の説明を熱心に聞くクラブ員



栽培されているイチジクの様子

活動情報

TEL 0930-23-4215 FAX 0930-23-8290

E-mail keichiku-dlc@pref.fukuoka.lg.jp

園芸畜産課 花き畜産係

No. 20 (令和6年10月18日)

リンドウの先進地視察研修を開催

～中山間地の新たな花き品目として～

京築地域の中山間地域では、ホオズキやキクが長年栽培されており、JA 福岡京築花卉部会で共同販売されるとともに、地元直売所にも出荷されています。近年、部会員の高齢化に伴い栽培面積が減少していることから、栽培労力の省力化が可能で、かつ直売所出荷の組み合わせ品目として有望であるリンドウ栽培を検討するため、京築地域農業・農村活性化協議会園芸振興部会花き班では、令和6年9月6日にリンドウの先進地を視察しました。

当日は、花き生産者3名、関係機関4名の参加のもと、宮若市日吉地域の生産者2名のほ場を訪問し、リンドウ導入の経緯、リンドウ栽培の長所・短所および栽培上の留意点について、生産者および飯塚普及指導センター花き担当者より話を伺いました。併せて、今年の春、苗を植え付けた1年目のほ場から、収穫開始となる2年目のほ場、収穫盛期となる3～4年目のほ場で生育状況を視察しました。栽培ほ場の標高は200m～300m程度と、比較的低い標高にも関わらず、目立った株枯れや日焼けは観察されず、順調な生育をしていました。参加者からは、施肥方法、収穫方法、出荷規格等に関する質問が積極的になされ、リンドウ栽培に対する関心の高さが伺えました。

後日、視察研修に参加した生産者の一人は、来年度から、リンドウの栽培に試験的に取り組む意向を示されました。

今後、普及指導センターでは、中山間地の花き栽培品目の一つとしてリンドウ栽培の確立に向け、関係機関と連携して支援を行います。



リンドウのほ場視察の様子